

発行所
独立行政法人水資源機構
思川開発建設所
☎028-622-8941
発行人兼編集人
柴田 安宏

梶又小学校閉校式

去る3月27日(土)、梶又小学校閉校式典が開催され、機構職員も式典のお手伝いをさせて頂きましたので、式典当日の様子をご紹介します。

このため3月末で卒業した6年生2人以外の梶又小学校へ通っていた4年生2人と3年生3人の皆さんは4月から他の小学校へ編入することになるそうです。

式典が開かれた梶又小学校の歴史は古く、時代とともにその名称を変えながら上南摩の学び舎として地元の方に親しまれてきました。当初は明治17年(1884年)に上南摩小学校梶又分舎として設立され、上南摩尋常小学校、南摩村立梶又小学校などを経て昭和30年に現在の鹿沼市立梶又小学校になったそうです。そうした長い歴史を持つ梶又小学校も南摩ダム水没予定地にあるため、3月末をもってその長い歴史に幕を下ろすこととなりました。



閉校記念式典の当日は、卒業生の方々をはじめとして、学校関係者等の来賓、招待者の方々あわせておよそ四百余名が来場され、開校以来の119年の長い歴史を偲ばれました。普段は移転が進み、人影がまばらで、野鳥の鳴き声、枝葉の葉擦れなど自然の物音が耳にしない梶又小学校周辺が大勢の来場者の喧噪につつまれ、大賑わいとなりました。



午前中に執り行われた閉校式典では、鹿沼市長をはじめとする来賓挨拶の方々や、卒業生の方々の愛惜の念を察する一と、閉校への感慨を述べられました。『児童感謝のこぼれ』では、最後の在校生となった児童の皆さんから、梶又小学校への感謝の言葉が述べられました。

『校旗返納』では、厳かな雰囲気にも包まれるなか、壇上で児童代表が緊張の面もちで校長先生へ校旗を手渡ししました。招待者席でも昔の思い出が思い起こされたのか、その目元をぬぐう方も見受けられました。校長先生が校旗を受け取ると会場からおしみにない拍手が送られました。記念式典終了後は、会場内で鹿沼名物のいも串とそばが振る舞われ、口にされた来場

者の皆さんは、昔懐かしく、あるいは素朴なのに力強いその味に過日への思いをさせ、舌鼓を打っておられました。午後の部では演奏、唱歌が主体とあって、厳粛な雰囲気の中にも、上流された演目なごやかな雰囲気にも包まれていました。上演された演目はどれも在りし日の梶又小学校での思い出を呼び覚まし郷愁を誘うものでしたが、悲しみや寂しさだけをテーマにするのではなく、明日への明るい未来を予感させるような希望に満ちた印象も受けました。

今後は梶又小学校の校舎は、独立行政法人水資源機構が南摩ダム上下流交流の場、水を使用される下流域の方々の事業への理解を深めて頂く場等として活用していく予定です。最後になりましたが、思川開発事業にご協力いただいた学校関係者の皆さんに感謝の意を表すとともに、関係諸機関のみなさまに今後ともご指導、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。



事業の最新情報を皆様にお伝えします

おもいがわトピックス

思川開発事業の進捗状況について
平成十六年度事業計画について

平成15年度は、予算27億円をもって水没地権者の生活再建を最優先に南摩ダム水没予定地の用地取得(平成16年3月末現在の用地取得面積の進捗率は58%)に取り組みとともに、導水路関連の測量及び地質調査、付替県道関連の測量及び地質調査、その他水理調査、環境調査等を実施しました。平成15年度末における事業全体に対する進捗率は約18%です。

平成16年度は、通常予算約61億9千万円及び用地先行取得費30億円をもって、平成15年度に引き続き水没地権者の生活再建を最優先に南摩ダム水没予定地の用地取得に取り組みとともに、導水路の取水放流工の用地調査及び用地取得を進めるほか、新たに付替県道の用地取得に着手します。

予算執行の内容は、用地先行取得償還費として約43億円、測量及び試験費として約4億4千万円(水没地関連調査、付替県道関連調査、導水路関連調査、環境調査等)、用地費及び補償費として約3億6千万円(水没地及び付替県道並びに導水路取水放流工予定地の用地取得)、その他、船舶及機械器具費、営繕費、事務費等となっております。



上の写真は、熱気球から撮影した閉校式当日の梶又小学校の建物(右側)と閉校式会場のテント(左側)の全景です。

南摩ダムパトロール

南摩ダム湛水予定地内及び林道周辺において、車によるパトロールを随時行っており、このパトロールの目的は、事業用地の管理保全・環境保全対策です。

現在、水没移転者の大部分が移転され、ダム用地となることがメディア等により広まったことで、多数の方々が山遊びや山菜採り等に興じられ、一部の心無い方々により個人の移植予定木の盗掘、貴重植物等の乱獲、ゴミの不法投棄等の問題が生じています。このような状況への対応策の一つとして、職員が水没地内のパトロールを行うことと致しました。

パトロールは不定期に行っており、途中でゴミを見つければ拾い、山遊びの人を見かければ声を掛け、チラシを配って協力を呼びかけております。

す。パトロールについては写真にもありますように非常に分かりやすい格好で行っており、また、もし見かけられた方はご協力の程よろしくお願いたします。

南摩ダム予定地周辺は、緑の木々が生い茂り美しい花が咲いています。水資源機構として、この自然を守り安全で良質な水を作っていくために環境保全対策にも取り組んでいます。

また、思川開発事業や環境保全への取り組みについてPRする場、環境教育、自然体験学習等を実施する場として、3月末に閉校した梶又小学校を基幹施設として利用していくことを検討していきま

こんにちは!

南摩の仲間たち



その
キンボウゲ科
イチリンソウ
(一輪草)
Anemone nikoensis

花期：4～5月
分布：本州、四国、九州

イチリンソウは本州、四国、九州の落葉広葉樹林や山麓の土手などに生える多年草の春植物です。根からでて葉は2回3出複葉と呼ばれる形をしていて、小葉は羽状に裂けます。花は4～5月頃に1本の長い茎の先端に5枚の白い花びらをつけた直径3～4センチくらいの花を一輪咲かせます。

南摩では川沿いの土手や林の林縁部などに多く見られます。

イチリンソウに似た種類では、文字通り二輪の白い花を咲かせるニリンソウや、花びらが多いアズマイチゲ、キクの花に似ているキクザキイチゲがあり、南摩ではこれら全ての種を見ることが出来ます。これらの植物もイチリンソウと同じく、キンボウゲ科の春植物(春の妖精、スプリングエフェラルとも呼ばれます)で、まだ、他の植物が生い茂ってくる前の春先に競って花を咲かせますが、花が終わって実を結ぶと枯れて、他の植物が繁茂してくる頃には、地上部はなくなってしまいます。このような生活サイクルを選んでいるのは、他の植物との生存競争を避けるためと考えられています。

今年はいつもとより春の訪れが早かったようですが、皆さん、今年の「春の妖精」はご覧になりましたか？



協力呼びかけの配布チラシです。



この車がパトロール車です。



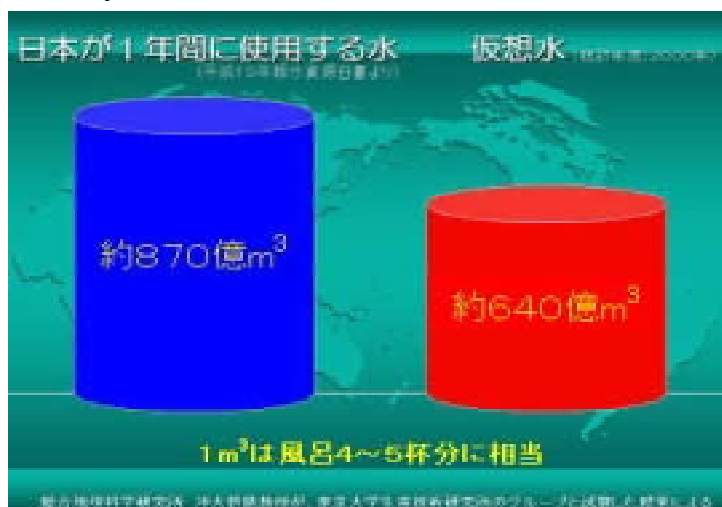
びっくり! 水の資源のまめ知識

その「水の貿易」

現在日本は農産物や工業製品など海外からたくさん輸入しています。それらを生産するためには水が必要であり、間接的に水を輸入しています。この水を仮想水といいます。たとえば食パン一斤に必要な水は500～600、ステーキ200gに必要な水は約4,000です。

日本国内での年間の水使用量は約870億・といわれています。それに対し仮想水量は年間約640億・といわれており、仮想水の輸入量は国内使用水量の約3分の2に相当します。また、ミネラルウォーターの輸入という直接的な水の輸入も年々増加しています。

世界の国々の中では水が豊富だといわれている日本ですが、食料だけでなく飲料水においても多くを輸入に頼っているのです。このことから、国内だけで常に安定してお届けできる水を賄うためには、水資源を安定して確保していく必要があるように思われます。



参考文献 水資源機構HP

人事異動

3月31日付で転出及び退職のありました職員を紹介します。

- 調整課長 「お世話になりました」
- 第二調査設計課 益山高幸 (国土技術政策総合研究所)
- 第一用地課 大岡克行 (国土交通省河川局)
- 高橋香織 (退職)

4月1日付で転入・転出のありました職員を紹介します。

転入者 「よろしくお願いたします」

- 【前任地】
- 総務課長 嶋田政司 (本社総務部)
- 第二用地課長 牛山賢一 (千葉用水総合事業所)
- 調整課長 後藤恭央 (中部支社建設部)
- 第一用地課 菅俊久仁 (本社財務部)
- 第二用地課 杉田康司 (本社用地部)
- 第一調査設計課 青木成幸 (本社人事部)
- 第二調査設計課 國居史武 (新規採用)
- 工務課 福岡亮平 (木津川ダム総合管理所)
- 小林昌運 (武蔵水路改築調査所)
- 佐久間千恵 (豊川用水総合事業部)
- 【転出先】
- 総務課長 鹿毛貞利 (本社人事部)
- 第二用地課長 手柴八州生 (丹生ダム建設所)
- 第二調査設計課 小笠原幹生 (本社管理事業部)
- 第一用地課 高玉浩臣 (徳山ダム建設所)
- 第二用地課 神田橋修 (本社用地部)
- 工務課 廣瀬真由 (利根川河口堰管理所)
- 永井伸一 (香川用水総合事業所)
- 西津英治 (木津川ダム総合管理所)

- 所内異動
- 第一調査設計課 鶏飼宣行 (第二調査設計課)